

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成 27年 1月 15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2794500088		
法人名	株式会社 エスカンパニー		
事業所名	泉佐野介護福祉センター		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府泉佐野市中庄1284番地の3		
自己評価作成日	平成26年11月25日	評価結果市町村受理日	平成27年2月4日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	tp://www.kaigokensaku.jp/27/index.pl
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成27年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

泉佐野市の中心地に位置し、立地的に自然の整った中にグループホームがあります。徒歩数分の所に市役所・桜の季節は多くの人々で賑わう泉の森ホールあります。また近くにはホームセンターや大手スーパーもあります。利用者様には四季を肌で感じて頂けるように、お散歩を楽しんだり外出の機会や行事を設けています。利用者様一人ひとりが、他者との交流を通してご自分の思いを語らい穏やかに生活出来るように環境作りに努めています。また利用者様の行動を常に見守り把握できるように、テーブルやソファを配置し安全で快適に生活が維持できるように工夫しています。更にレク及びリハビリ(特にリハビリは職員が積極的に利用者様と一日のプログラムを決めて実施)を工夫し利用者様のADL低下及び認知症進行予防に力を入れ職員が熱心に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

泉佐野介護福祉センターは消防署、市役所、泉佐野市立文化会館(泉の森ホール)やダンバラ公園などの公共施設にも近く、静かで落ち着いた恵まれた環境の中に立地している。昨年、職員体制に大きな変更はないものの、運営法人が変わり、旧体制の長所は引き継ぎながらも、心機一転、理念の実践に向けて取り組んでいる。基本理念においては、従来のものに「地域の中のひとりとして生活できるよう自立を支援する」を追記し、より地域密着型サービスの意義を踏まえた理念となっている。職員は基本理念を理解し、利用者に寄り添いつつ、食事の準備や後片付け、排泄の際のトイレ誘導など、今できることを大切にしながら自立に向けた支援に取り組んでいる。地域との交流においては、地域ボランティアを毎月受け入れたり、事業所建物を地域の避難場所として市に申し出たり、保育園児とも毎年交流会を重ねるなど、地域とのつながりを大切にした運営を行っており、今後とも地域交流への取り組みに意欲的である。また、昨年末より年1回の家族会を開催しており、家族との交流、そして家族の意見や要望等をこれまで以上に運営に反映させようとする事業所の姿勢が感じられる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価 ①ユニット	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の基本理念があり、フロアに掲げ日々黙読しています。職員が理念を意識することで、利用者様の意思及び人格を尊重し、常に利用者様の立場に立ったサービスを提供できるように努めています。	「地域の中の一人として生活できるよう自立を支援する」を従来の基本理念に加え、より地域密着型サービスとしての意義を踏まえた独自理念を作成している。入職時の研修の他、事業所内への掲示、職員の携帯する名札の裏面に掲載するなど、全職員が理念を共有し、日頃からその実践に務めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ボランティアの方による演奏会や映写会、小学生・保育園児達との交流会を定期的に行っています。また、お天気の良い時は近く公園にお散歩に出かけ、近隣の方と利用者様との交流を楽しんで頂いています。	自治会に加入しているが活動はなく、また、地域の行事も行われていないため、日頃は散歩の際に地域住民と挨拶を交わす程度である。地域のボランティアによる月1回のギターやハーモニカの演奏会、年3回の昔のテレビ映写会、年1回の保育園児との交流会を実施し、地域とのつながりを図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所独自の取り組みとして、老人会や民生委員の方たちの集まりに参加させていただき、認知症に関する理解を深めて頂けるようお願いしています。今後も機会があれば出かけていきたいと考えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族様にも参加して頂き2ヶ月に一度定期的開催し、サービスの利用状況や行事報告をおこなっています。また行政及び家族様の意見や要望を参考にさせて頂きサービスの向上に取り組んでいます。	2ヶ月ごとに開催している。参加者は事業所関係者の他、市の担当者と利用者家族に留まっている。主にサービスの利用状況や事業報告を行っており、サービス内容については事例を基に活発な意見交換が行われている。意見等は議事録で職員に報告し、会議等で話し合い、サービスの向上に活かしている。	かねてより管理者が地域に事業所をPRし、事業所と地域との交流を図ってきた経緯はあるものの、地域の理解を得るまでには至っていない。地域密着型サービスの意義を踏まえて、運営推進会議に、地域の代表者など地域住民の参加が望ましく、行政の協力を仰ぎながら引き続き、会議への参加の取り組みを期待したい。

5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>事業所が市役所及び社会福祉協議会の近くにあるため、電話だけでなく直接訪問し、相談及び意見を聞いています。今後も積極的に研修や勉強会に参加し地域に根差したサービスに取り組んでいきます。</p>	<p>立地的に市役所から近いこともあり、サービス内容に関して疑問があれば、市役所に足を運び、市の担当者との積極的な協力関係の構築に取り組んでいる。また、泉佐野市地域密着型サービス事業者連絡協議会に加入し、会議の際は市の担当者も交えて意見交換を行なっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>外部及び内部研修で、制度の理解と拘束ゼロを周知徹底し実践しています。本来玄関は常に開錠するべきですが、利用者様の現況から安全確保及び防犯の為施錠している時もあります。</p>	<p>毎月の職員会議や勉強会で身体拘束について話し合っており、日頃から身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。ただ各ユニットの出入口は、安全面を最優先し、日中ほとんど施錠している。外出願望のある利用者には職員と一緒に散歩に出るなど対応している。</p>	<p>ユニット出入口の施錠については、事業所自身、常に頭を悩ませる長期的な課題である。新たな人材の雇用や人員配置の問題など、事業所の抱える問題は多くあるものの、引き続き、施錠をしなくても利用者が安心して暮らせる環境整備への取り組みに期待したい。</p>
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員が虐待に関する知識を正しく理解できるよう、外部研修及び内部研修で定期的に学ぶ機会を設けています。また職員同士が話し合い、利用者様の情報を共有しケアをおこなうことで、虐待防止に努めています。</p>	/	/
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>H26年より泉佐野市も市民後見人講習を実施、職員も講習に参加し学ぶ機会を得ています。また得た知識は職員に内部研修等で伝達し、個々の必要性に応じた対応ができるようにしていきたいと考えています。</p>	/	/
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約においては重要事項説明書・利用契約書等の説明をおこなっています。家族様からは質問や意向を聴き取り対応に努め、十分に理解・納得して頂いたうえで、契約を交わし入居後にトラブルのないよう努めています。</p>	/	/

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見・要望を気軽に出して頂けるように意見箱を玄関に設置しています。また職員ひとり一人が家族様の面会時に意見や要望を気軽に話して頂けるような雰囲気作りを心掛け、意見や要望を運営に反映出来るように努めています。</p>	<p>日常的に利用者一人ひとりの思いを汲み取る支援を心がけ、気付いた事は日報に記録し、職員間で共有している。家族とは日頃の面会時や電話連絡の際に、また事業所内行事（年4回）、家族会（年1回）、運営推進会議において意見や要望等を聴き取っている。聴き取った意見等は職員間で検討し、運営に反映している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月1回職員会議を開催し、話しやすい環境を整え、意見交換やコミュニケーションを図っています。それ以外にも個別に面談し会議で話せなかった意見や要望を聞き、業務改善に反映できるよう努めています。</p>	<p>管理者は、職員会議や日頃の勤務の中で話し易い雰囲気づくりをしている。また、歓送迎会、忘年会、新年会などの親睦を図る場も設け、職員が発言しやすい環境を整えている。聴き取った提案等は軽微なものは即改善し、設備に関する案等については検討後にできる限り職員の意見を反映させるように努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>就業環境の健全化については、常に職員の意欲や向上心が損なわれない様環境を整え、職員一人ひとりが、やりがいを感じて仕事に取り組めるよう努めています。また職員の勤務に関しては職員同士の理解もあり柔軟に対応しています。</p>	/	/
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員同士が率先してケアに関する知識や技術の交換を行ない、ケアに反映しやすい環境を整えています。また外部研修の他、内部研修を実施、職員の意識向上に努めています。</p>	/	/
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>泉佐野市事業所連絡会及び社会福祉協議会等の研修等を通してネットワークづくりと情報交換の場を活用し、更に他施設の訪問や見学等から学び取り入れ、サービスの質の向上に努めています。</p>	/	/

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ゆっくりと時間を掛けて入居前の事前面談を行い、入居後も密にコミュニケーションを図りながら不安や心配事・意向を聴き取り、安心して生活できるよう工夫しています。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>生活歴や身体状況、現実困っている事等の情報を収集し本人及び家族様の不安や思いを汲み取り、話し合い安心できるように努めています。入居後は家族様に、本人の様子を定期的に報告し情報を共有しています。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>基本情報及び家族様からの情報を客観的に判断し、今何を必要としているかを見極めサービスに取り入れています。更に状態に応じてサービスを見直し、直ぐに対応できるように努めています。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>日々の生活の中で、話しやすい環境を整え、本人の個性を發揮できる場を提供しています。またコミュニケーションを密に図り、不安を持つことなく他者との交流を楽しみ、生活出来るように支援しています。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族様には季節ごとの行事に参加を呼び掛け、利用者様と楽しいひと時を過ごして頂けるよう工夫しています。また現況報告を定期的にお知らせし、家族様が安心して共に支えていく関係を築いています。</p>		

20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の協力を得て買い物及びドライブ等は随時対応しています。また、家族様だけでなく、友人・知人の方々にも気軽に立ち寄って頂けるよう馴染みの関係が途切れないように支援しています。	家族から同意を得た古くからの友人や知人の訪問を快く受け入れ、馴染みの人との関係継続を支援している。また、外食の帰りに近所をドライブするなど、住み慣れた土地を懐かしむ機会を設けている。遠方への外出は家族が同伴している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活においての心身の状態を把握し、利用者様同士が支え合いができるような環境を作り（フロアのテーブルの配置、席に着けば誰かと会話ができる）、共に楽しく暮らしていけるように職員が心掛け、支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も電話等で家族様の相談に応じ不安の解消に少しでも役立っているように努めています。今後も他施設への窓口紹介や必要書類の作成、及び他施設の相談員との連携を図り対応していきます。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の介護支援の中で利用者様の話される事柄を傾聴し、思いや日頃気にしている事柄を把握し介護に活かしています。また困難な場合は、声や表情を汲み取り安心できるように支援しています。	暮らし方の希望や意向の把握は、主に家族から聴き取った生活歴を参考にしている。利用者本人からは、直接聴き取ることが難しくなっているため、職員が寄り添い、できる限り表情やしぐさなどから汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	家族様や知人の方の面会時の会話の中で、利用者様の今まで知り得た以上の新しい情報を得ることも多く、家族様等と会話できる機会を設け、得た情報を活かし、その方らしい暮らしができるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の残存機能を活かし、出来る事柄はなるべくご自分でおこなっていただき、出来ない事柄は、その時々々の心身の状態に応じて過剰支援にならない様、職員間での情報の共有を行なっています。		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>日々の心身状態を把握し、利用者様が負担に感じることのないように介護計画を作成しています。定期的にモニタリングをおこない、家族様及び職員間で話し合い、現状に即したケアに取り組んでいます。</p>	<p>職員は日報や介護日誌により、常に利用者の状態を把握しており、定期的一人ひとりのモニタリングと計画の見直しを行っている。担当者会議には家族にも参加を呼びかけ、家族の意見も参考に介護計画を立てている。会議に参加出来なかった家族には、介護計画を郵送している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>アセスメント及びモニタリングを繰り返し、心身の状態の変化や早期対応に努めています。また、日報・日誌及び職員間の申し送りノートを活用、情報を共有し現状の把握に努め状態に応じてプランの見直しをおこなっています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>急な受診等については、利用者様の状態の変化や家族様の状況に応じて柔軟に対応できるように努めています。そのために面会時等を利用し家族様の現況に応じ協力体制を整え支援しています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>物品納入業者・理容など地域の人々との関わりを大切にしています。またボランティアの方を通してコミュニケーションを図り、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しています。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者様及び家族様が希望の医療機関があればそこへ、なければ24時間対応出来る連携クリニックの医師が月2回の定期往診、適切な治療が受けられるように支援しています。また急変時は医師及び訪看による訪問、更に状態に応じ職員が同行適切な医療が受けられるように支援しています。</p>	<p>利用者や家族が希望するかかりつけ医に受診している。通院は家族が付き添っている。また、連携医療機関である2カ所の内科往診がそれぞれ月1回、歯科往診が週1回あり、それらを利用し、かかりつけ医としている利用者も多い。受診結果は家族から連絡を受けたり、往診の場合は家族に電話で報告している。受診結果を日報に記録し、職員間で情報を共有している。</p>	

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護師は常在していませんが、24時間対応可能な訪問看護との契約により週2回定期的に体調管理を行なっています。更に専門職として連携医療機関と急変時などは早急に対応して頂けるように、連携を諮っています。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院が必要になった時は病棟看護師との連携を諮り、より良い看護に繋がるように情報提供票を作成、情報を提供している。入院後も定期的に訪問し、医師・担当看護師及び相談員との情報交換・相談に努めています。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に重度化した場合や終末期については、家族様に事業所としての限界について、口頭及び文書で説明し同意を得ています。状態の変化等で医療行為が必要になった場合や継続が困難で重度化した状態である時は、医師及び看護師を交えて話し合い、家族様が安心して他のサービスが受けられるように取り組んでいます。</p>	<p>入居時に事業所の方針を口頭で家族に説明し、家族からは「緊急時の対応についての同意書」により同意を得ている。終末期が近づいたときに事業所管理者、連携医療機関の医師、訪問看護師等の関係者と家族で話し合いを行い、文書にて同意を得た上で看取りの支援を行なっている。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>内部研修や救命講習等を通して異常時の早期発見と状態に応じた対応ができるよう実践に取り組んでいます。消防署が近い為、直に連絡、早期対応が可能です。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>自衛消防訓練は年2回、消防署職員参加指導のもとに日勤・夜間帯を想定し、実施しています。また内部研修等で災害を想定し対応について話し合い意識の向上に努めています。</p>	<p>消防訓練は年に2回全職員を対象に実施している。うち1回は消防署員立ち会いの下、夜間を想定したものである。防災マニュアルは各フロアに設置している。市に対しては地域の避難場所として届けているものの、地域への認知度は低く、防災面での地域の協力関係の構築は不十分である。スプリンクラーを設置し、飲料水や食品など概ね3日分の備蓄をしている。</p>	<p>消防署がすぐ近くにあるが、災害発生時には、近隣住民との相互の協力関係は不可欠となるため、日頃から近隣住民との防災意識を高め、協力関係の構築が望まれる。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>個人情報やプライバシー保護については職員の意識改革に取り組んでいます。さらに接遇についても職員一人ひとりが利用者様の人格を尊重し個性及び土地柄も踏まえ意識し言葉が掛けや対応に努めています。</p>	<p>職員会議等での勉強会において、利用者の尊厳やプライバシー保護について話し合いを行なっている。日々のサービス提供時においても、職員間で注意をし合っている。個人ファイルなどは事務所内の鍵付き書庫に保管している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人の性格及び生活習慣を把握し日々の生活会話や行動及び表情を通して本人の思いを汲み取り、介護支援が押し付けにならないように個々の意思・納得のもとに自己決定出来るように努めています。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>集団生活の中で全てにおいて希望に沿う事は難しいところもありますが、できうる限り個々のペースに合わせてゆっくりとした生活を支援しています。また本人の希望があれば、手芸や買い物等の支援をおこなっています。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>本人の好みや意向に応じた服装で過ごして頂いています。またご自分で出来ない方に関しては、職員が持っておられる洋服の中から色の組み合わせ等を考え、おしゃれを楽しんで頂いています。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者様の嗜好を聞き季節感のある食材をメニューに取り入れ献立を決めています。利用者様ひとり一人に合わせ食事を楽しんで食して頂けるように工夫しています。押しつけにならない様無理のない範囲でのお手伝いもお願いしています。</p>	<p>管理者が季節感のある献立を心がけて作成し、週2回食材購入をしている。利用者は野菜の皮むきや、おしぼり巻き、皿洗いなどを職員と一緒にしている。また、節分やひな祭りでの行事食、ホットケーキ、どら焼き、焼き芋、フレンチトーストなど利用者と職員と一緒に作って食事を楽しんだり、年1回程度の外出に出かけるなど食事を楽しめるよう工夫をしている。</p>	

41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎日、食事・水分チェック及び毎月の体重測定をおこない記録しています。また、個々に応じた食事形態や量を提供しています。更に糖尿病の利用者様もおられ食事コントロールが必要なため、栄養のバランスにも配慮しています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>誤嚥性肺炎の予防に口腔ケアが不可欠と考え、毎食後口腔ケアと歯磨きを欠かさず支援しています。義歯の方は夕食後洗浄をおこなって清潔に努めています。毎週火曜日は、訪問歯科により口腔ケア及び治療を実施しています。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェックを行い、個々の排泄パターンの把握に努め、早めのトイレ誘導を心掛けています。またご自分で出来る行為はさりげない支援にとどめ、自主性を重んじるようにしています。</p>	<p>利用者の排泄記録から、一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見計らってさり気ないトイレ誘導をしている。利用者の状態により2人介助を行なう場合もある。夜間も基本的にはトイレ誘導を行い、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便チェックを行ない、食材やメニューを工夫し、更にリハビリ体操等を取り入れ少しでも腸運動の活性化に努め便秘予防に取り組んでいます。便秘症の利用者様は医師に相談、対応しています。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>本人の体調や希望を考慮し週2～3回程度の入浴を目安としています。更に本人の希望があれば入浴して頂いて清潔保持に努めています。一人入浴を支援しプライバシーへの配慮をおこない支援しています。</p>	<p>職員の勤務体制により、週5日を入浴日と設定し、1人あたり週2、3回程度入浴しているが、入浴の時間帯は事業所が決められている。浴槽の湯は毎回入れ替えているのではなく、絶えず湯を流しっぱなしにしている。入浴しない日も足浴、手浴などで補っている。入浴拒否のある利用者には、声かけする職員を変更するなど工夫をしている。希望する利用者には同性介助を行っている。</p>	

46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個々のペースに合わせて、一日の生活リズムを崩さないよう配慮し、生活を支援しています。居室の環境整備及び精神的安定に努め安眠できるよう支援しています。尚毎日の体調を把握し休息時間を設けています。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>調剤薬局薬剤師による服薬管理をお願いし、薬についての疑問や気になることは直ぐに聞くことができる体制を整えています。また薬リストは副作用・用法等直ぐに確認できるようファイルを作成しています。更に誤薬のないように名前を声にし、2人で確認しています。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>コミュニケーションを通して、個々の意欲及び持っている力が発揮できるように、生活の活性化にホーム全体で取り組んでいる。また全ての方ではありませんが、洗濯ものや植木のお世話等の気分転換を図って頂いています。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>自然環境に恵まれた立地条件を活かし、近隣へのドライブ・外食・お散歩などを支援しています。年間行事で初詣・お花見と地域への外出支援を行っています。家族の希望で買い物やドライブを兼ねた外食等に出かけています。</p>	<p>日頃は、近くの泉の森ホールやダンバラ公園へ散歩をしている。事業所の年間行事として、加支多神社への初詣や、泉の森ホールへ弁当を持って花見に出かけている。その他、遠方に家族と出かけたリ、希望により職員と一緒に買い物やドライブに出かけるなど、外出の支援に取り組んでいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族との話し合いで多少の金額を所持されておられる方や事務所で管理している方もおられます。希望に応じ、ショッピングを支援したり、職員が買い物をすることもあります。随時、利用者様と残高を確認し家族様にも報告しています。</p>		

51	<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者様の希望があれば職員が手伝い、電話を掛けお話をしています。また、季節毎に年賀状や暑中見舞い等を家族様や知人を書いて頂くなど支援しています。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は常に整理整頓に努めています。壁やテーブルには行事で写した写真や季節のお花を飾り、心が和むスペース作りを工夫しています。散歩時には野花を摘んで、花瓶に活け楽しんで頂いています。</p>	<p>各ユニットとも共用スペースは清掃が行き届き清潔感があり、食堂兼居間には大きな窓があるため、明るく開放的な空間となっている。加湿器やソファテレビを置き、利用者やボランティアの手芸作品、事業所での行事の写真を飾っている。ダイニングテーブルは、利用者の動線の妨げにならないよう配置を工夫している。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ひとりになれる空間作りに配慮し、外の景色や、お互いの居室に行き来出来るようにソファやテーブル・椅子の配置を工夫し、ゆっくりと過ごせるように努めています。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の好みに合わせてベッド・布団を使用しています。思い出の物品の持ちこみ及び家族様の写真やお花を飾ったりして、心が和む居室作りを工夫しています。更に個々にテレビやラジオを見聴きされ自由に過ごして頂けるようにしています。</p>	<p>エアコンとクローゼットは備え付けであり、その他ベッド、テレビ、タンス、衣装ケース等は利用者が自由に使い慣れたものを持ち込んでいる。持ち込む物品に特に制限は設けていない。家族の写真や配偶者の遺影を飾ったり、畳を敷いている利用者もいる。毎日職員が居室内を清掃し、衛生的である。また、各居室扉の内側に利用者の好みの長暖簾を設置し、プライバシーへの配慮もしている。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全面に配慮し、フロア内やトイレ・浴室に手すりを設置しています。利用者様の目線に立って掲示物を表示し、安全に行動できる環境整備に努め、少しでも自立した生活ができるよう支援しています。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられれている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価 ②ユニット	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の基本理念があり掲示及び職員名札裏に携帯し職員が理念を意識する事で、利用者様の人格を尊重し個々の対応に努め、ご本人の意思に沿える様サービスを提供できるように努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ボランティアの方による演奏会や映写会、小学生・保育園児達との交流会を定期的に行っています。また、お天気の良い時は近く公園にお散歩に出かけ、近隣の方と利用者様との交流を楽しんでいます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所独自の取り組みとして、老人会や民生委員の方たちの集まりに参加させていただき、認知症に関する理解を深めて頂けるようお願いしています。今後も機会があれば出かけていきたいと考えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族様にも参加して頂き2ヶ月に一度定期的に開催し、サービスの利用状況や行事報告をおこなっています。また行政及び家族様の意見や要望を参考にさせて頂きサービスの向上に取り組んでいます。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	事業所が市役所及び社会福祉協議会の近くにあるため、電話だけでなく直接訪問し、相談及び意見を聞いています。今後も積極的に研修や勉強会に参加し地域に根差したサービスに取り組んでいきます。		

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>外部及び内部研修で、制度の理解と拘束ゼロを周知徹底し実践しています。本来玄関は常に開錠するべきですが、利用者様の現況から安全確保及び防犯の為施錠している時もあります。できる限り利用者様の意向に沿うように対応しています。</p>		
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員が外部研修及び内部研修で定期的に学ぶ機会を設け、職員が虐待に関する知識を正しく理解できるように努めています。また職員同士の意見の交換及び情報を共有することで虐待防止に努めています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>H26年より泉佐野市も市民後見人講習を実施、職員も講習に参加し学ぶ機会を得ています。また得た知識は職員に内部研修等で伝達し、個々の必要性に応じた対応ができるようにしていきたいと考えています。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約においては重要事項説明書・利用契約書等の説明をおこなっています。家族様からは質問や意向を聴き取り対応に努め、十分に理解・納得して頂いたうえで、契約を交わし入居後にトラブルのないよう努めています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見・要望を気軽に出示して頂けるように意見箱を玄関に設置しています。また職員ひとり一人が家族様の面会時に意見や要望を気軽に話して頂けるような雰囲気作りを心掛け、意見や要望を運営に反映出来るように努めています。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月1回職員会議を開催し、話しやすい環境を整え、意見交換やコミュニケーションを図っています。それ以外にも個別に面談し会議で話せなかった意見や要望を聞き、業務改善に反映できるよう努めています。</p>		

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>就業環境の健全化については、常に職員の意欲や向上心が損なわれない様環境を整え、職員一人ひとりが、やりがいを感じて仕事に取り組めるよう努めています。また職員の勤務に関しては職員同士の理解もあり柔軟に対応しています。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員ひとり一人労いの言葉を掛け業務に関する意見交換を行ない、ケアに反映しやすい環境を整えています。また外部研修の他、内部研修を実施し職員の意識向上に努めています。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>市事業所及び社会福祉協議会等の研修等を通してネットワークづくりと情報交換の場を活用し、更に他施設の訪問や見学等から学び取り入れ、サービスの質の向上に取り組んでいます。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ゆっくりと時間を掛けて事前面談を行い、不安や心配事・意向を聴き取り、和やかに会話できるように工夫し本人（興味のあること、得意なことなど取り入れ配慮、心掛け）とのより良い関係作りに努めています。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>生活歴や身体状況、現実に困っている事等の情報を収集し、本人及び家族の不安や思いを汲み取り話し合い安心できるように努めている。入居後は家族様に、利用者様の様子を報告し情報を共有しています。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>基本情報及び家族様からの情報を客観的に判断し、今何を必要としているかを見極めサービスに取り入れています。更に状態に応じてサービスを見直し、直ぐに対応できるように努めています。</p>		

18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、話しやすい環境を整え、コミュニケーションを密に図り、本人の個性を發揮できるかを考え、不安を持つことなく他者との交流を楽しむ生活出来るように支援しています。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様と家族様との関係を考えて、季節ごとの行事に参加を呼び掛け、楽しいひと時を共に過ごして頂けるよう工夫しています。また利用者様の日常生活の様子を見て頂き、家族様が安心して共に支えられるよう、信頼関係を築いています。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の協力を得て外出の機会を作り、外食やドライブ等は随時対応しています。また、家族様だけでなく友人・知人の方々にも気軽に立ち寄って頂けるよう馴染みの関係が途切れないように支援しています。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の様子を観察し、利用者様同士が助け合い、支え合いができるような時間と場を提供し支援に努めています。また利用者様が孤立していると思えた場合は興味を持てる素材を提供し孤立防止に努めています。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後も家族様の相談に応じ不安の解消に少しでも役立っていけるように努めています。今後も家族の要望に応じた他施設への窓口紹介や必要書類の作成、及び他施設の相談員との連携を図り対応していきます。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9 ○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の介護支援の中で利用者様の言葉に耳を傾け、本人の希望に沿えるように努めています。また意思疎通が困難な方でも、表情を汲み取り本人にとって何が一番良いかを考え支援していきます。		
----	--------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>家族様面会時の会話の中で、利用者様の今まで知り得た以上の新しい情報を得ることも多く、出来るだけ家族様とお話をするよう機会を設け、その方らしい暮らしができるように努めています。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>個々の残存機能を把握し、過剰支援にならない様出来る事柄は、ご自分でおこなっていただき、出来ない事柄は、その時の心身の状態に応じて支援をおこない経過等の把握に努めています。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>利用者が負担に感じないように無理なくできる範囲で介護計画を作成しています。月に1度ケアカンファレンス及びモニタリングを行ない家族様及び職員の意見も取り入れ日々の状態を把握し現状に即したケアに取り組んでいます。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>アセスメント及びモニタリングを繰り返し、心身の状態の変化や早期対応に努めています。また、日報・日誌及び申し送りノートを活用し、職員間で情報を共有し心身の現状の把握及びケアの実践に努めています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>急な受診等については、利用者様の状態の変化や家族様の状況に応じて柔軟に対応できるように努めています。そのため面会時等を利用し家族様の現況に応じ協力体制を整え支援しています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>物品納入業者・理容など地域の人々との関わりを大切にしています。またボランティアの方を通してコミュニケーションを図り、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しています。</p>		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>利用者様及び家族様が希望の医療機関が あればそこへ、なければ24時間対応出来 る連携クリニックの医師が月2回の定期 往診、適切な治療が受けられるように支 援しています。また急変時は医師及び訪 看による訪問、更に状態に応じ職員が同 行適切な医療が受けられるように支援し ています。</p>		
31		<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるよう支援し ている</p>	<p>看護師は常在していませんが、24時間対 応可能な訪問看護との契約により週2回 定期的に体調管理を行なっています。更 に専門職として連携医療機関と急変時な どは早急に対応して頂けるように、連携 を諮っています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。又は、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院が必要になった時は病棟看護師との 連携を諮り、より良い看護に繋がるよう に情報提供票を作成、情報を提供してい る。入院後も定期的に訪問し、医師・担 当看護師及び相談員との情報交換・相談 に努めています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に重度化した場合や終末期につ いては、家族様に事業所としての限界につ いて、口頭及び文書で説明し同意を得て います。状態の変化等で医療行為が必要 になった場合や継続が困難で重度化した 状態である時は、医師及び看護師を交え て話し合い、家族様が安心して他のサー ビスが受けられるように取り組んでいま す。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全 ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定 期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>内部研修や救命講習等を通して異常時の 早期発見と状態に応じた対応ができるよ う実践に取り組んでいます。消防署が近 い為、直に連絡、早期対応が可能です。</p>		

35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛消防訓練は年2回、消防署職員参加指導のもとに日勤・夜間帯を想定し、実施しています。また内部研修等で災害を想定し対応について話し合い意識の向上に努めています。		
----	----	------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------	--	--

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報やプライバシー保護については職員の意識改革に取り組んでいます。接遇についても利用者様の人格を損なわないよう職員ひとり一人が意識し注意を払っている。一人ひとりの個性に合わせた言葉かけや対応に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活会話や行動を通して本人の思いを汲み取り、介護支援が押し付けにならないように個々の表情を汲み取り意思を見極め自己決定出来るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の中で全てにおいて希望に沿う事は難しいところもありますが、できる限り個々のペースに合わせゆっくりとした生活を支援してます。また本人の希望があれば、手芸や買い物等の支援をおこなっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みや意向に応じた服装で過ごして頂いています。またご自分で出来ない方に関しては、職員が持つておられる洋服の中から色の組み合わせ等を考え、おしゃれを楽しんで頂いています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の嗜好を聞き季節感のある食材をメニューに取り入れ献立を決めています。利用者様ひとり一人に合わせ食事を楽しんで食して頂けるように工夫しています。押しつけにならない様無理のない範囲での片付けなどのお手伝いもお願いしています。		

41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎日、食事・水分チェック及び毎月の体重測定をおこない記録しています。また、個々に応じた食事形態や量を提供しています。更に糖尿病の利用者様もおられ食事コントロールが必要なため、栄養のバランスにも配慮しています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>誤嚥性肺炎の予防に口腔ケアが不可欠と考え、毎食後口腔ケアと歯磨きを欠かさず支援しています。義歯の方は夕食後洗浄をおこなって清潔に努めています。毎週火曜日は、訪問歯科により口腔ケア及び治療を実施しています。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェックを行い、個々の排泄パターンの把握に努め、定期的にトイレ誘導をおこない支援しています。また重度の認知症の利用者様でも表情や言動によりサインを察知しできる限りトイレで排泄できるように支援しています。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便チェック及び状態観察をおこなっています。食材やメニューを工夫し、更にリハビリやレク等で腸の働きを促し便秘予防に取り組んでいます。便秘症の方は医師に相談し対応しています。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>本人の体調や希望を考慮し週2～3回程度の入浴を目安としています。更に本人の希望があれば入浴して頂いて清潔保持に努めています。一人入浴を支援しプライバシーへの配慮をおこない支援しています。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個々のペースに合わせて、一日の生活リズムを崩さないよう配慮し、生活を支援しています。居室の環境整備及び精神的安定に努め安眠できるよう支援しています。尚毎日の体調を把握し休息時間を設けています。</p>		

47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>調剤薬局薬剤師による服薬管理をお願いし、薬についての疑問や気になることは直ぐに聞くことができる体制を整えています。また薬リストは副作用・用法等直ぐに確認できるようファイルを作成しています。更に誤薬のないように名前を声にし、2人で確認しています。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>コミュニケーションを通して、個々の意欲及び持っている力が発揮できるように、歌や体操など取り入れ生活の活性化にホーム全体で取り組んでいる。また全ての方ではありませんが、洗濯ものや植木のお世話等の気分転換を図って頂いています。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>自然環境に恵まれた立地条件を活かし、近隣へのドライブ・外食・お散歩などを支援しています。年間行事で初詣・お花見と地域への外出支援を行っています。家族の希望で買い物やドライブを兼ねた外食等に出かけています。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族との話し合いで多少の金額を所持されておられる方や事務所で管理している方もおられます。希望に応じ、ショッピングを支援したり、職員が買い物をすることもあります。随時、利用者様と残高を確認し家族様にも報告しています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者様の希望があれば職員が手伝い、家族や知人に電話を掛け会話をしています。また、季節毎に年賀状や暑中見舞いを家族様や知人に書いて頂くなど支援しています。</p>		

52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は常に生理整頓に努めている。人形を置いたり、テーブルには季節のお花を飾り、心が和むスペース作りを心がけている。散歩時に、野花を摘んで、活けて楽しんで頂いています。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ひとりになれる空間作りに配慮し、外の景色や、お互いの居室に行き来出来るようにソファやテーブル及び椅子の配置を工夫し、ゆっくりと過ごせるように努めています。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>個々の好みに合わせて家具等を持ち込み使用して頂いています。思い出の物品や家族様の写真を飾ったりして、心が和む居室作りを工夫している。更に個々にテレビやラジオを見聞きされ自宅と同じように自由に過ごして頂いています。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全面に配慮し、フロア内やトイレ・浴室に手すりを設置しています。利用者様の目線に立って掲示物を表示し、安全に行動できる利用者様の日常生活動作の把握及び環境整備に努め、少しでも自立した生活ができるよう支援しています。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられれている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができていく	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない